

学校図書館機能の活用を通じた、主体的に学び続ける力の育成（2年次）

－9年間の学びをつなぐ、各教科等における学習活動・読書活動の在り方－

吉田 夏紀（京都市総合教育センター研究課 研究員）

変化の激しい時代において「生きる力」を身に付けるため、学校図書館の機能を活用し、子どもたちの主体的な学習活動・読書活動の充実を図ることが求められている。昨年度は、系統的、計画的に学校図書館を活用するため「学校図書館の活用を通して付けたい力系統表」及び「学校図書館活用計画例」を作成し、各教科等における学習活動・読書活動モデルを提示した。今年度は、小学校と中学校の9年間を見据えた学習活動・読書活動の在り方について研究を進めた。付けたい力を明確にした小・中学校での授業実践や「学校図書館活用計画例」を活用した組織的な取組を行うことにより、9年間の学びをつなぎ、主体的に学ぶ力の育成を目指した。

第1章 主体的に学び続ける子どもの育成のために

第1節 いま、なぜ「学校図書館の活用」なのか
我が国の教育課題を踏まえ、各学校においては「言語活動の充実」「子どもたちの主体的な学び」「実生活で生きる力」につながる多様な学習の在り方が求められている。学校図書館の活用は、これらの学習の実現のために欠かせない手段であることから、その活用の必要性が叫ばれていると考える。

また、「情報教育」と「学校図書館の活用」は情報活用能力を育成するという点において目標を同じくしている。よって、図書資料を中心に様々な資料をもつ学校図書館を活用することは、情報教育推進のための一つの手段であり、「知識基盤社会」を生きる子どもたちに、必要な情報を主体的に収集、選択、活用し、発信、伝達する力を育む点で大変重要であると考えられる。

第2節 学校図書館の活用における現状と課題

平成25年度全国学力・学習状況調査の小学校第6学年及び中学校第3学年における質問紙調査結果からは、小学校、中学校ともに、子どもが自分で課題を立てて情報を集めたり、本やインターネットを使って調べたりする学習活動を行っているとはいえない状況がみて取れた。

また、本市の小・中学校教員を対象に行ったアンケート調査結果からは、学校図書館の活用に関わって、小学校と中学校で差があることや、小学校、中学校ともに、教職員の意識や取り組み方に差があることがわかった。これらを踏まえ、教職員が、学校図書館活用の意義や方法を共通理解し、学校図書館を活用した授業の具体的なイメージをもつことができるような取組が必要であると考えられる。

第2章 9年間の学びをつなぐ学校図書館

第1節 学校図書館の活用を通じた小中連携

本市では、小中一貫の教育目標を設定し、全ての中学校ブロックで小中一貫教育に取り組んでいる。しかし、平成25年度全国学力・学習状況調査から、授業の冒頭で目標を示す活動、授業の最後に振り返る活動、学級やグループで話し合う活動において、京都府の小・中学校での取り組み方には差がみられ、「教科等の学習における」指導内容や指導方法について、小・中学校で連携した取組が行われているとはいえない状況がみて取れた。

また、本市アンケート調査結果から、本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導については、小・中学校ともに、学年に応じた系統的な指導にまでは至っていないことがみて取れた。そこで、本研究では、学校図書館の活用を通して小・中学校が連携し、課題解決に必要な力を系統的に身に付けることを目指した。

第2節 系統的な学習活動・読書活動の展開のために－学校図書館活用計画例の活用－

昨年度作成した「学校図書館の活用を通して付けたい力系統表」に加え、今年度は更に、中学校版を作成し、小・中学校9年間で付けたい力を示した。学校図書館の活用を通して付けたい力は、汎用的な力である情報活用能力を系統的に身に付けるための各学年でのねらいであり、全ての教科等で育成することのできる力である。また、「学校図書館活用計画例」を活用し、付けたい力を明確にした上で、組織的な取組を進めることにした。これにより、学校図書館の活用について学校全体、中学校ブロック全体で共通理解することができ、9年間を通じた系統的な学習活動・読書活動につながると考えた。

第3章 各教科等における学習活動・読書活動

第1節 小学校第5学年での授業実践から

○図画工作科「アート・レポーターになって」

本題材では、学校図書館を活用し「著作権を尊重し、出典を記す」「感じたことと調べたことを区別して伝える」などの力を付けたいと考えた。

美術作品と同じように図書資料などの情報にも著作権があることを知るにより、その大切さに気づき、奥付を見て情報カードに出典を記すことができた。また、美術作品について図書資料で調べたことにより、同じ作者の他の作品についても興味をもって鑑賞する姿が見られ、第1時と比較して、美術作品に対する見方や考え方が変化したり深まったりしている様子がみて取れた。

○家庭科「おいしいね 毎日の食事」

本題材では、「インターネット利用におけるきまりや出典の記し方を知る」「情報の信頼性を確かめる」などの力を付けたいと考えた。

デジタルコンテンツやプレゼンテーションソフトを使い、図画工作科での学習と関連付けることで、インターネットの情報にも図書資料の情報と同じように著作権があることや、出典を記す必要があることを理解できるようにした。また、学習や発表などの際には、発信元が明らかで信頼性の高いWebサイトを使い、図書資料や複数のWebサイトを見て、情報の信頼性を確かめることが大切であることも伝えた。インターネット用と図書資料用の2種類の情報カードを用意したことにより、両方を使って調べたり、複数のWebサイトを使って調べたりする姿が見られた。

第2節 中学校第1学年での授業実践から

○数学科「方程式」「平面図形」

数学科の各単元では、「図書の分類と配架の仕方を知る」「出典を記す」「図書資料を利用して課題を解決する」などの力を付けたいと考えた。

図書の分類と配架の仕方については、学習内容に関する資料を図書の分類と合わせて紹介したり、学校図書館を活用した学習の際には必ず、図書の分類についてふれたりすることで、系統的な指導を目指した。また、小学校での学びと関連付け、図書資料を活用した場合は出典を明記する必要があることを確認し、情報カードやワークシートに出典を記した。

単元「方程式」では、教科書の問題場面を利用し、人や動物、乗り物などの実際の速さを図書資料で調べて、グループで問題をつくる活動を行った。単元「平面図形」では、図書資料の中から、

図形の移動でできているとみられる記号やマークを見つけ、移動の仕方について調べて考察する活動を行った。学校図書館を活用したこれらの活動により、数学での学びと実生活とのつながりに気付いたり、学習内容をより理解できたと実感したりする姿が見られた。また、自分やグループで調べたことを、数学的な表現を使って説明することもできた。更に、課題解決の過程で、これまで学習したことを活用する姿も見られた。

第4章 学校図書館活用のさらなる充実を求めて

第1節 研究の成果と課題

各教科等において学校図書館を活用することで以下の成果が見られた。

- 様々な資料を活用し、自分で調べて課題を解決したことにより、思考の深まりや学習内容の理解につながった。
- 一人一人が課題を設定し、自分で資料を選び、友だちと話し合っただけで学習を進めていくことにより、学習意欲の向上や主体的な学びにつながった。
- 様々な資料の情報から、実生活、実社会での場面を想起して課題を解決することにより、実生活で生きる力の育成につながった。

また、各教科等における学校図書館活用計画例の活用、小学校における学校図書館活用委員会の実施、中学校ブロックにおける「学校図書館の活用を通じた小中連携」をテーマとした小中合同研修会の実施及び図書資料の相互貸借制度の活用など、組織的な取組を行った。これらの取組により、学校図書館を活用した授業についての具体的なイメージを共有し、小中9年間を見通した教科学習の在り方について具体的に話し合うことができたとともに、各学校の図書館環境の充実につなげることができた。

第2節 これからの学校図書館

子どもたち一人一人が学校図書館機能を活用し、生涯にわたって学び続ける力を身に付けるためには、学校図書館の蔵書のさらなる充実や図書館運営支援員との協働的な授業展開が大切である。また、身に付いた力を子どもたち自身がメタ認知できるような授業づくりやインターネットの活用も含めた学校図書館活用の推進が求められる。教師一人の「点」としての取組だけではなく、学校全体の、または中学校ブロックの、「線」や「面」としての取組が重要である。教師一人一人の授業改善とともに、小・中学校9年間を見通した系統的、組織的な学校図書館の活用が望まれる。